

ひがしひろしま 郷土史研究会ニュース

No.607

2025年3月

2月例会報告

2月例会は2月22日(土)、市役所北館市民協働センターで開催され、25人が参加した。

冒頭で赤木会長が34年ぶりにカンボジアを訪問したことに触れ、「ポルポト政権による大量虐殺の恐怖は今なおあの国の人々の中に残っており、国の指導者の過ちを止められなかったことに対する悔いと平和への強い決意に繋がっている。今年は戦後・被曝80年を迎える、平和にとっても大切な1年。皆さんと協力して郷土史研究会としての課題に向き合っていきたい」とあいさつした。

研究発表は、近藤英治氏による「古文書へのいざない」。近藤氏はまず広島藩が「芸藩通志」を編纂するにあたり、藩内各村から「國郡志下調書出帳」を提出させた経緯を説明した。書出帳の内容は村名の由来から人口、牛馬の数、地形、寺社仏閣、生物の生息状況に至るまで非常に多岐にわたる。さらにその一部である「国郡志御用二付下調帳 賀茂郡冠村の文書を見ながら、内容を分かりやすく読み下し、参加者に紹介した。

発表後は、創立50周年記念事業の反省と今後の課題、4月29日開催の「第39回東広島の史跡・文化財を見て歩く会」の進捗状況、春の臨地研修の計画、来年度の課題(財政状況・組織の活性化)に関する報告などがあった。

例会のまとめとして、今田副会長が「古文書を読むことは難しいが、こういった一次資料を読むことは郷土史研究にとって必要な作業。ぜひ古文書を読んでみてほしい」と呼びかけた。

<例会参加者(敬称略)> 赤木達男、國松宏史、今田幸博、福村博士、船越雄治、近藤英治、近藤孝美、蔵楽知昭、谷本操、三嶋昇、松浦学、天野浩一郎、光田清志、吉村鈴枝、吉田泰義、西谷勝彦、木原敏博、上野洋司、神本良彦、吉原澄子、長井悦子、松木津々二、小西美智子、大森美寿枝、進藤真由美(以上25名)

3月例会のご案内

日時 3月22日(土) 13:30～
場所 市役所北館 市民協働センター
発表 第39回東広島の史跡・文化財を見て歩く会「広島杜氏のふる里をめぐる」の見どころ

矢原大和氏

「創立50周年」を振り返って(1)

会長 赤木 達男

一昨年6月の実行委員会起ち上げから昨年11月の県史協「第46回東広島市大会」までの1年半にわたり取り組んだ「東広島郷土史研究会創立50周年事業」を成功裏に終え3ヶ月経ました。

あらためて会員をはじめご協力くださいましたすべての皆さまに感謝申し上げます。多くの成果と教訓、学びをいただきました。これらを皆さまとともに確認・共有し、新たなステージに挑んで参ります。引き続き、よろしくお願い致します。



「オール郷土史」で裾野広く

「50周年記念事業」を進めるにあたって、会員みんなが参加・参画できる「オール郷土史」で取り組むこと。「東広島の史跡・文化財を見て歩く会」など、諸活動にご理解とご協力をいただいていた団体をはじめ、多くの団体や事業所の皆様に参画・助成いただける取り組みにすること。市民や学生など郷土史に関心を寄せてくださる方々に、ボランティアスタッフを担っていただくことを柱に据えました。

それは研究会創設から今日まで半世紀にわたり活動と組織をつないでくださった先達の方々が、培い結んでこられた諸団体や市民の皆さまとの関係(絆)を一層広く、固く結び、「新たなステージへのスタートとなる事業」とするという思いからでした。

二つの記念事業

記念事業は50周年記念誌『50年の歩み』の刊行と主管団体として企画・準備・運営を担う広島県史協「第46回南部地区東広島市大会」の二つとし、実行委員会の下に「記念誌編集部会」および「県史協大会部会」を設置し、取り組みを進めてきました。

7回の実行委員会のほか「県史協大会」の企画・準備段階に4回の「県史協大会部会」、「記

念誌」の編集方針策定段階に3回の「記念誌編集部会」、編集・校正段階に20数回の「編集委員会」を開催しました。



20回以上にわたり開催された編集委員会

「会議疲れ」の感も拭えなかったと思いますが、課題および進捗の共有、工夫やアイデアを出し合ってきたことが、それぞれ二つの記念事業を成功に導いたと思います。

16名の入会、ぐっと若返った研究会

「県史協大会」の項でも報告しますが、高齢化が進み、県外・市外在住もいる会員構成の中で54名（51%）の会員が参加しました。

また広島大学の先生方と学生さん、広島県立大、賀茂高等学校、精華学園高等学校などの学生さん、東広島ボランティアガイド、「道の駅」、市教育委員会、市ブランド推進課など21名の皆さんにボランティアスタッフとして大会を担っていただきました。

こうした活動の裾野の広がりとともに、最大の成果は新たな会員獲得です。一昨年6月に実行委員会を立ち上げて以降、21歳の大学生をはじめ30～40代の現役世代を中心に16名の方に入会いただき、平均年齢がぐっと若返りました。

記念誌『50年の歩み』

10年前の「創立40周年」時に220頁に及ぶ記念誌『歩みと回想』が刊行されており、「どのような誌面構成にするか」、随分と編集部でも議論されました。創立から40周年までは『歩みと回想』をダイジェストにまとめ、2014年以降の10年間を書き加えることとし、執筆・編集を進めました。

「会員参加の記念誌づくり」の観点から「回想」も検討されましたが、10年という短いパンや頁数などもあり省くことになりました。次の周年では検討の余地があると思います。

編集・校正作業は編集基準と表現をめぐる幾度も議論を重ね、とても時間を要するシビアな

作業でした。そうした編集作業、今田幸博編集長（副会長）の丁寧なチェックとリーダーシップなしには進みませんでした。

また、進藤真由美編集委員（理事）の尽力抜きには成し得ませんでした。生業の傍ら校正作業の度、120頁余りのゲラを修正・加筆、写真の入れ替え。誌面を整え次の編集委員会に備えるという作業を10数度繰り返していただきました。ご兩名にあらためて感謝申し上げます。

大好評！

『郷土史ニュース』創刊からの電子縮刷版（CD）

『50年の歩み』の特筆すべき特徴は、『ひがしひろしま郷土史研究会ニュース』の電子縮刷版（CD）を袋付けしたことです。

1974年8月の創刊から50年間唯の一度も欠けることなく発行が続けられてきたニュースは、貴重な研究活動の記録であり、研究会の軌跡です。それはともに産声を上げた東広島市の発展と変遷、人びとの暮らしの移ろいの記録でもあります。当時の執筆者や編集者の息づかいまでが伝わってくる一級品の歴史的文書と言えます。

その創刊号から600号までの総頁2,950ページ、厚さ24cm余りをCDに収録しました。年次と執筆者名から索引が可能で、各方面から大変な好評をいただいています。

（以降次回に続く）



第6回昔の道探訪会 『高屋町高屋東岩谷観音』

谷本 操

令和7年（2025）1月15日（水）白市に集合し車で岩谷に移動。吉田さんの先導で冬景色を眺めながら、麓から急峻な折れ曲がった小道を往復5キロ。棚田が放置されていますが、半世紀前に田植えや稲刈りをした思い出がよみがえります。

「岩谷観音」正法寺跡の観音堂

標高424m・比高125m

鎌倉時代地頭平賀氏が東の鬼門として建立。澄んだ空気の中おごそかに観音堂の扉が開かれると、正面に金色に輝く聖観音菩薩に思わず「ワァ綺麗」と声が出ました。

菩薩は自分の身を犠牲にして衆生を救って下さる仏で、母親のような優しいお姿、宝冠を被り、下半身には腰布、上半身に細長い布を巻き、肩からショールのような天衣をかけられ、左手には蓮華を持たれています。みなさん感動して眺められ、合掌。



聖観音菩薩

境内を散策。

宝暦10年（1760）に白市の木原保満が寄進した宝珠が乗っている「舍利塔」、高さ2.62mの「宝篋印塔」、巨岩に囲まれた石段を上がると、洞窟に仏像、横には赤い前掛をつけている「抱き地藏さん」。お参り出来たことへの感謝とお願い事をさせていただきました。西側の正法寺跡では風格のあるどっしりとした石仏や石灯籠にも感動しました。行き帰り眺めた高屋東から西高屋そして西条盆地から幾重に広がる山並みの素晴らしい故郷の眺めも楽しみました。

浄土真宗「日親山光乗寺」参拝

元は真言宗、天文5年（1536）、開基は浄裕。駐車場の横には地域を守る「田植地藏」境内に入ると樹齢100年以上と言われる「龍松」が横に15m伸びて見事でした。突然の訪問にも快く女性住職の隋行さんが本堂に招いてくださいました。

ご本尊に合掌。襖絵、天女の彫物は青の色が印象的。日本古来の青です。色鮮やかな「格子絵天井」見事な色彩で白市の家紋職人により作られたそうです。

廊下に出て本堂入り口の両柱の上の木鼻に注目。龍？アレ？足に蹄がある？麒麟だと聞き、初めて見た麒麟に魅入りました。



麒麟の木鼻

新年会「旬華」で昼食して解散。

参加者・赤木達男、神本良彦、國松宏史、蔵楽知昭、宍戸元文、吉田泰義、小西美智子、進藤真由美、大森美寿枝、谷本操

※取材・東広島市公報戦略監の大目さん

吉田さん、大森さん、この日の為にご尽力いただき有難うございました。

【八本松探訪18】

八本松町のお寺（3/3）

天野浩一郎

7. 竜溪山妙徳寺（八本松町飯田）

急激に住宅地へ変貌した飯田地区に浄土真宗本願寺派妙徳寺があります。住職は、ホームページ・ブログ・3か月毎発行の寺報・テレホン法話などを通し、多くの檀家とコミュニケーションをとっています。

・開基

縁起には、長和元年（1012）に恵信僧都が開基し、宗派は天台宗で本尊は自作と伝えています。

・浄土真宗への改宗

室町時代、毛利監物重元という人が出家し教西と改め、真言宗の僧として当寺に住んでいました。

明応元年（1492）、彼は京都に旅して山科本願寺で蓮如上人の説法を聴聞し、開眼してその弟子になります。そして六字の名号「南無阿弥陀仏」の染筆と了善の法名をもらいました。

了善の四代目に当たる了見が妙徳寺を継ぎ、享保年中（1716～1735）に寺号が許され、本願寺に直属する直末寺となりました。また、享保12年（1727）には寂如上人（14世宗主）の絵図

が下賜されます。

天明4年(1784)の火災で、蓮如上人の染筆などがごとごとく焼失したとされています。

浄土真宗に改宗した時期について、芸藩通志と庄屋で当寺の檀家であった石井氏の覚書には“慶長15年(1610)”とあり、上記の“明応元年(1492)”との二説があります。

・飯田越中守宣真(実)の墓



飯田越中守宣真の墓

境内の奥に戦国時代大内氏の槌山城の城番の一人、飯田越中守宣真の墓があります。

幕末に毛利氏が参勤交代でこの地を通った時、毛利氏の家臣であった飯田氏が供揃いで墓参し、村人が驚いたという話が残っています。当時の過去帳にその名が載せられているそうです。

尚、この墓は明治時代に本堂裏から現在地に移され、そのためか墓相は正しくないようです。移転の際、刀や多くの古銭が出たと言われています。

(参考文献：「川上村史」他)

8. 長尾山天龍寺(八本松町宗吉)

国道2号線の宗吉交差点から志和方面へ200mほど北上すると、西側に浄土真宗本願寺派天龍寺があります。

明治35年(1902)、地元の人達の要望により浄土真宗の説教場として開かれました。川上弾薬庫の設置に伴い現在地に移転した後、昭和22年(1947)に正式に寺号が承認されました。

現在の住職は3代目ですが、ホームページを開設しお寺に関する情報と共に寺報「無碍の一道」を発信しています。

御正忌法座などの定例行事の外に、寺独自の歎異抄輪読会・コーラス・広島音楽高等学校卒

業生による演奏会・研修旅行などを定期的に行っています。

説教場の建立に中心的役割を果たした広島市の篤信家と地元の事業家が本尊の“阿弥陀如来像”と“親鸞聖人御影(像)”を寄贈しています。

“阿弥陀如来像”は室町時代後期のものと推定され、“親鸞聖人御影(像)”の裏書には明暦元年(1655)の銘があります。

(参考文献：「天龍寺ホームページ」他)



阿弥陀如来像



親鸞聖人御影

9. 自性山妙福寺(八本松南)

旧西国街道が走る八本松南地区に東広島市で唯一の法華宗寺院の妙福寺があります。

もとは飯田村中畝にありましたが(旧妙福寺と仮称)、江戸時代に広島藩士大橋一郎左衛門が現在地に土地を寄進し、堂宇を建立しました。

・旧妙福寺

縁起には“人王96代持明院の御代に創建”とあり、南北朝時代に建てられたと考えられます。96代は持明院統ではなく大覚寺統の後醍醐天皇であり、表記には問題が残っています。

この寺屋敷の前に小さな祠があり、96代持明院の第六皇子が使用した冠と紐がまつられていたと言われていました。(写真は祠があったことを示す標識ですが、現在標識は残っていません)



別の伝説として、後醍醐天皇が四国に赴かれる途中に当寺に一時身を寄せたとあります。

後醍醐天皇の第六皇子は後村上天皇ですが、後村上天皇の位牌だと伝える菊桐を散らしたものが当寺に残っています。(後世の作と思われる)

また、大内氏の鏡山城で代官をしていた蔵田備中守房信が妙福寺に帰依し、近辺の村々の50貫を寺領としました。寺は大いに繁栄し僧坊が8坊あり、門前には市が開かれ大いに賑ったと伝えています。市尻、市頭という地名も残っています。

・妙福寺の再建

1000石を領していた浅野藩の大橋一郎左衛門は法華宗の信者で、原飯田村に320石の知行を許されていました。彼の給庄屋を勤める上次郎丸氏から妙福寺の窮状を聞き、藩の許可を得て南原という山を拓き、8丁(約870m)四方を寺の境内として妙福寺を建立します。

代々の大橋氏は妙福寺と深い因縁を保ち、寺の経済を維持するため畠地・水田・灌漑用池を拓くなど、物心両面で寺を支えました。

境内には妙福寺を再建した大橋一郎左衛門の墓があり、ねんごろに弔われています。

・信者から寄付された什物



須弥壇 (大森美寿枝氏提供)

須弥壇の上部に飾られた木像式曼荼羅本尊(日蓮大聖人像、各菩薩像など25体の尊像で構成)は、享保7年(1722)頃に当時の家老上田重次の内室が寄進したものです。中央部には3枚の位牌が並んでいますが、真ん中が後村上天皇の位牌です。

日蓮上人が信仰した法華経を守護する三十番神(毎日交代で国家や国民を守護する30柱の神々)がありますが、大橋一族の寄進と考えられます。

また、梵鐘・半鐘・宝塔題目石塔・大鑿・前机など多くの什物を信者が寄附してきました。

・現住職の世良隆善氏は妙福寺に関する古文書、縁起、種々の文献、縁故寺院の記録などを長い間調査し、平成元年(1989)に貴重な資料「妙福寺史」を発刊されています。

(参考文献:「妙福寺史」「川上村史」他)

コラム

「歴史を面白く学ぶコテンラジオ」の紹介 進藤真由美

コテンラジオは、背景を交えて歴史的な事件や人物を深く掘り下げるインターネットラジオの番組です。楽しく聞いているだけで、人間の普遍的な特性や社会の構造、歴史の大きな流れが徐々に頭に入ってきます。

歴史的背景の解説に力を入れるようになった、シリーズ5「秦の始皇帝」以降がおすすです。私自身は宗教改革や第一次世界大戦の解説に大変感銘を受けました。メイン解説者・深井さんの幅広い視点は、郷土史を学ぶ皆さんの助けになるかもしれないと思い、紹介させていただきました。YouTubeでも視聴できます。



YouTube チャンネル



コテンラジオ公式サイト

1月例会発表

志和の標柱

今田 幸博

1月の例会発表の詳しい内容については、令和5年（2023）10月号（590号）の郷土史研究会ニュースに詳しく掲載しております。内容を振り返りたい方は、そちらをご覧ください。

初めまして、山本春近と申します

新規会員さんのメッセージ

尾道で個人事業主（唐揚げ屋と行政書士）をしております。

高屋町郷の生まれで、高校卒業まで高屋で暮らしておりました。

昨年の11月にプレスネットの山城の記事を偶然拝見し、たいへん興味を抱いたのがきっかけで、入会させていただきました。

昭和49年の生まれですので東広島市、東広島郷土史研究会と同一年になります。

骨董商を営んでいたこともあり石造物、古文書には特に興味があります。

楽しく学んでいけたらと思っています。

どうぞよろしくお願ひいたします。

【第39回史跡文化財を見て歩く会 実行委員会】

第39回史跡文化財を見て歩く会実行委員会を次の日程で開催いたします。お時間が取れる方は是非ご参加いただきますようお願い致します。

日時 第4回 3月10日(月) 10:00～
第5回 3月31日(月) 10:00～
第6回 4月14日(月) 13:00～
第7回 4月21日(月) 10:00～

場所 市民協働センター

※周りの会員の方々への積極的な声かけもお願い致します。

【新規会員募集中】

活動が気になる方は、下記QRコードから覗いてみてください。



Instagram



HP



Facebook

【郷土史研究会ニュース原稿募集のお知らせ】

郷土史研究会ニュースの原稿を募集しています。会員ならどなたでも紙面で発表できます。パソコンが苦手な方は手書きでOKです。ぜひ、ご寄稿ください。

グループ研究会ご案内

第294回 古文書研究会

とき 3月18日(火) 13:30～

ところ 市役所北館 市民協働センター

テキスト 国郡志御用書上帳賀茂郡奥屋村⑩

第191回 石造物研究会

とき 3月15日(土) 12:50～

ところ 安芸津生涯学習センター

内容 第3回東広島市の石造物探訪会

※一般市民の参加大歓迎のイベントです。

石造物研究会員以外の会員も、ぜひお気軽にご参加ください。資料代300円。

参加申込は國松へご連絡ください。

第191回 四日市町並研究会

とき 3月10日(月) 13:30～

ところ 西条本町歴史広場 コジマヤ土蔵

内容 「酒都西條」とりまとめ

昔の道探訪会（旧山城探訪会）

とき 3月12日(水) 9:00～

集合場所 鏡山公園 第2駐車場

探訪内容 早春の梅などの花見探訪

参加申込 吉田または大森へ連絡ください

原爆資料保存研究会

とき 3月20日(木) 14:30～

ところ 市役所北館 市民協働センター

内容 原爆展の企画展、イベントについて

3月の図書室開放

とき 3月21日(金) 13:00～15:00

ところ 高屋教育集会所

ひがしひろしま郷土史研究会ニュース
第607号

令和7年（2025）3月5日発行
編集・発行 東広島郷土史研究会

会長 赤木達男 TEL(082)423-7235

E-mail:akata@akata.dion.ne.jp

事務局長 國松宏史 TEL 090-7979-6234

E-mail:kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp

会報編集 進藤真由美 TEL 090-2860-0177

Email:m.shin.pasha@gmail.com